

総合的な学習の時間

第6学年

育成を目指す資質・能力 【コミュニケーション能力】【知識・情報活用能力】  
【主体性】【協働性】【自己肯定感】【よりよく生きようとする力】

単元名

## 伝統芸能から学ぼう

### ～美土里小6年 安芸高田神楽応援プロジェクト～

【単元の概要】

児童は、自分たちの町で神楽を題材にテレビドラマが作成されると聞き、身近にある「神楽」についてより詳しく学びたいと興味・関心を高めます。しかし、他市からの転入生の一言「えっ、神楽って何？」をきっかけに、それほど神楽の認知度は高くないのかと疑問を抱きます。そこで、本市や他市などの小学生に呼びかけ実態調査を行い、その結果を基に、神楽応援プロジェクトを立ち上げ、様々な取組を進めていきます。

学習指導要領における領域・内容

地域や学校の特色に応じた課題

他教科等との関連

国語、算数、音楽、家庭

図画工作、特別活動（学校行事）

◆単元の目標

美土里町の伝統芸能「神楽」についての体験活動や地域の人々の願いや生き方を学ぶことを通して、自分たちの住む地域を誇りに思い、故郷を愛する心情を培う。また、自分たちにできることを考えていく学習を通して、自己の成長を振り返り、自分の生活をよりよくしていこうとする態度を養う。

◆単元の展開（全 50 時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p><b>情報の収集、整理・分析（6）</b></p> <p>美土里町で神楽を題材にテレビドラマが作成されることをきっかけに、神楽の認知度について話し合う。</p> <p>神楽の認知度を調べるために、安芸高田市内の小学生と、転入生の転入前の学校（広島市）、保護者・地域の方にアンケート調査を依頼し、集計・分析を行う。</p>	<p>○テレビで美土里町の神楽がドラマになるんだって。やっぱり、神楽は有名だよな。</p> <p>○「えっ、神楽って何？」（転入生）</p> <p>○神楽を知らない人もいたみたいだよ。</p> <p>○どれぐらいの人が神楽を知っているのかな。</p> <p>○アンケートをとってみるのはどうかな。</p> <p>「転入生の言葉をきっかけに、神楽はそれほど知られていないのではないかと疑問を感じる。」</p> <p>＜アンケート前＞</p> <p>○アンケートやインタビューをして、たくさんの人に神楽について聞いたらどうかな。</p> <p>○どんな人に聞いたらいいかな？</p> <p>○安芸高田市以外の人にも聞いてみたいな。</p> <p>○神楽を観る頻度も聞いてみよう。</p> <p>＜アンケート後＞</p> <p>○どんなグラフで表せばよく分かるかな。</p> <p>○神楽を観たことがあるかないかの割合は、算数で学んだ円グラフが分かりやすいかな。</p> <p>○広島市でも神楽を知っていると答えている人は多いね。でも、実際に観たことがある人数の割合には大きな差があるよ。</p> <p>○安芸高田市でも町によって割合が違うね。</p> <p>○自分たちがイメージしていたより、神楽を観ている人は少ないみたいだよ。</p> <p>○もっと多くの人に神楽を観てほしいな。</p> <p>「神楽は有名だと思っていた自分たちの予想とのギャップから、もっと神楽を知ってもらいたい」という気持ちを抱く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■（事前の取組）転入生の神楽に対する認知度について、事前に把握しておく。</li> <li>■（事前の取組）朝の会等で機会をとらえて、神楽のドラマ制作について話をしておく。</li> <li>■テレビドラマの予告CMを視聴させる。</li> <li>■自分たちの認知度とのズレを感じ始めた児童に、「どうやったら神楽の認知度を調べられるかな」と投げかける。</li> <li>■安芸高田市内の小学校や転入生の転入前の学校に事前にアンケートの依頼をする。</li> <li>■800人以上のアンケート調査を効率よく整理するため、どうやったら結果が明確になるか児童に考えさせる。児童が直接パソコンに数値を入力すると同時にグラフ化されるよう事前に準備しておく。グラフ化された情報を基に、神楽を観る頻度や地域の項目に焦点化させ、分析を行わせる。</li> </ul> <p>【算数】割合を表すグラフの学習と関連させ、効果的な表し方を想起させる。</p>
<p><b>課題の設定（1）</b></p> <p>「安芸高田神楽応援プロジェクト」を発足し、神楽を多くの人に知ってもらい、観てもらうための計画を立て、学習の見直しをもつ。</p>	<p>○神楽を知ってもらうためには、まず自分たちが神楽の魅力をもっと知らないといけないね。</p> <p>○神楽に詳しい人の話を聞きたいな。</p> <p>○神楽の魅力伝える場合は、広報誌にもあった市外からもたくさん人が集まる9月の美土里こども神楽発表大会がいいんじゃないかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■安芸高田市の広報誌を準備しておき、神楽に関する年間のスケジュールを確認させる。</li> </ul>
<p>美土里小6年 安芸高田神楽応援プロジェクト 発足</p>		

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
	<p>○広報誌を見ると、1月には安芸高田神楽が東京で公演をしているよ。私たちにも何かできないかな。</p> <p>神楽応援プロジェクトを立ち上げ、具体的な方向性を話し合う中で、自分たちの力で神楽を盛り上げようとする意識が高まる。</p>	<p>■「美土里こども神楽発表大会（第3セクター「神楽門前湯治村」と地域の美土里こども神楽連絡協議会による行事）」の主催者と事前の連携を図っておく。</p>
<b>情報の収集、整理・分析（12）</b>		
<p>神楽門前湯治村を見学し、安芸高田神楽協議会会長から聞き取りを行う。</p>	<b>第1弾 安芸高田神楽 調査隊</b>	<p>■調べ学習によって、児童の知識がより深まるように、事前に知っていることをウェビングでまとめておき、新たに分かったことを書き足していく。</p> <p>■児童のつぶやきから、誰にどんな話を聞けばいいか考えさせる。</p>
<p>「安芸高田ものがたり」を活用し、郷土の発展に尽くした人について調べる。</p>	<p>○神楽はいつから始まったのかな。</p> <p>○この地域の神楽について詳しい人から歴史について聞いてみたいな。</p> <p>＜聞き取り後＞</p> <p>○協議会会長さんから、この地域の神楽の歴史について、くわしく話していただいたね。</p> <p>○昭和の戦争時代には、神楽の奉納が難しくなったんだって。その危機を救った人が「佐々木順三」さんだよ。</p> <p>○神楽の危機を救うために、たくさんの方が観て楽しめる要素が詰まった「新舞」を考えただね。それが、この地域に広がって、現在まで受け継がれているんだね。</p> <p>○この伝承の歴史も神楽の魅力の一つだね。</p>	<p>【国語】目的や意図に応じて取材し、情報を関係付ける学習を想起させる。</p> <p>■安芸高田神楽協議会会長や神楽団員、お面製作者に話を聞かせていただくよう依頼する。</p> <p>■ゲストティーチャー、インタビューの依頼を子供たちが行うことで、活動に必然性をもたせる手立てとし、また、コミュニケーション能力の育成につなげる。</p> <p>■安芸高田市ものがたり（郷土理解学習副読本：安芸高田市教育委員会編集）を活用し、先人の故郷を愛する思いから神楽が地域に根付いていることに気付かせる。</p> <p>■ゲストティーチャーと事前に連携を図り、神楽に対する情熱や神楽を行うこと、お面を制作する上での苦労を話してもらう。</p> <p>■身近にいる神楽団員（児童の親や祖父母等）には、アンケートを準備し、「神楽の魅力」、「苦労」、「児童に伝えたいこと」など項目別に回答をお願いする。そのアンケートとゲストティーチャーからの聞き取りを手作業で集計、分析することで、より詳しい聞き取り調査の材料にさせる。</p> <p>■1回目のアンケートの集計・分析方法と比較させ、その目的に応じた集計の仕方があることに気付かせる。</p>
<p>神楽団員やお面製作者から聞き取りを行う。</p>	<p>神楽の歴史について調べる中で、この地域に根付いている神楽にも存亡の危機があり、それを救った先人の活躍を知り、長い間受け継がれている神楽や先人に尊敬の念をもつ。</p>	<p>■身近にいる神楽団員（児童の親や祖父母等）には、アンケートを準備し、「神楽の魅力」、「苦労」、「児童に伝えたいこと」など項目別に回答をお願いする。そのアンケートとゲストティーチャーからの聞き取りを手作業で集計、分析することで、より詳しい聞き取り調査の材料にさせる。</p>
<p>身近にいる神楽団員にアンケート調査を行い、集計・分析を行う。</p>	<p>○お客さんに喜んでもらうために、必死で練習しているんだね。</p> <p>○お面作りは、一つ一つの作業を時間をかけて丁寧に行っているよ。さすがプロの仕事だね。</p> <p>○神楽に携わる多くの方が、自分の役割を一生懸命果たしているんだね。</p> <p>○苦労されてきた神楽関係者のためにも、しっかりと神楽の魅力を伝えて、安芸高田神楽を広めていこうよ。</p>	<p>■なぜ「美土里こども神楽発表大会」が毎年行われているのか、自分たち（6年生）に課せられている思いや願いについて気付かせる。</p>
<p>調べ学習を通して分かったことや感じたことを交流し、情報を共有する。</p>	<p>地域の伝統芸能神楽を盛り上げようと、多くの方が自分の役割に応じて、努力していることに気付く。</p> <p>○自分たちの知らないこともたくさんあったね。</p> <p>○神楽っていいね。安芸高田の自慢だよ。</p> <p>○苦労されてきた多くの神楽関係者のためにも、しっかりと神楽の魅力を伝えて、安芸高田神楽を広めていこうよ。</p> <p>○次は、伝える場「美土里こども神楽発表大会」について具体的に考えていこうよ。</p> <p>安芸高田神楽の歴史や携わっている方々の思いから、自分たちも地域の伝統芸能を広めていくという強い思いをもつようになる。</p>	<p>【算数】目的に応じて表やグラフを選び、活用する学習を想起させる。</p>
<b>課題の設定（1）</b>		
<p>昨年度の美土里こども神楽発表大会の様子を見て、今後の方向性を話し合う。</p>	<b>第2弾 美土里こども神楽 盛り上げ隊</b>	<p>■昨年度の美土里こども神楽発表大会の写真や動画を見せて、会場や活動のイメージをもたせる。</p>
	<p>○昨年度の6年生が司会をしているよ。アンケートも取っているみたいだね。</p> <p>○ちらしみたいなのも配っているよ。何が書いてあるのかな。</p> <p>○自分たちに何ができるか考えようよ。</p> <p>昨年度の様子から自分たちの活動のイメージをもつ。</p>	

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<b>情報の収集、整理・分析（3）</b>		
<p>美土里こども神楽発表大会に向けて、具体的な取組を話し合う。</p>	<p>○集客数を増やすために、「ホームページ」を使って宣伝しようよ。ちらしを配るのもいいんじゃない。フェイスブックは、親とかもよくやっているよ。効果がありそうだね。</p> <p>○お太助フォン（有線放送）で、市内の人に、神楽発表大会の日程を伝えたら来場者が増えるんじゃないかな。</p> <p>○お客さんに喜んでもらうために、神楽の魅力をかいたパンフレットを渡したり、神楽の絵を飾ったりするのはどうかな。神楽の衣裳体験も喜ばれると思うよ。</p> <p>○衣裳体験は、神楽団の人に聞いてみたら、できるかもしれないよ。</p> <p>課題解決に向け、「費用」や「私たちが実現可能か」等の視点で取組を自分事として考えている。</p>	<p>■ブレインストーミングの手法を用いて、「集客数を増やす」「お客さんに喜んでもらう」の2点について、たくさんのアイデアを出させる。実現可能かどうかは後日検討することを伝え、まずは、多様な意見を出させる。</p> <p>■実際に、自分たちの手で取組が実現可能かどうか、様々な思考ツールや手法を活用させ、児童の考えを広げたり、整理・分析・評価させたりする。</p> <p>■演目の見所について聞き取った内容や6年生のコメント、主催者が作成したポスターの縮小版を両面印刷し、ちらしを作成する。</p>
<b>まとめ・創造・表現（9）</b>		
<p>話し合いで決まった実現可能な取組について、役割を分担し、協力しながら準備を行う。</p>	<p>○わたしは、ちらしを書くために、子ども神楽団の友達に演目の見所を聞かぬ。</p> <p>○ほくはお太助フォンの放送原稿を考えるよ。</p> <p>○神楽の絵や神楽の魅力パンフレットは、どんなことに気を付けて作ればいいのか。</p> <p>○図工で学習したデザインや色使いについて考えながら、安芸高田市をイメージしたプレゼント用の神楽のしおりを作るよ。</p> <p>他教科での学びを生かし、取組を進めていく。</p>	<p>【国語】「事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書く」単元と関連させ、神楽のよさを効果的に伝えるパンフレットの作成に生かせるようにする。</p> <p>【図画工作】「見たこと、伝えたいことから表したいことを描く」学習と関連させ、効果的な神楽の絵やしおりの作成につながるよう、学習したデザインを想起させる。</p>
<p>安芸高田市内小学6年生対象神楽ワークショップや商業施設で、宣伝活動を行う。（商業施設での宣伝活動は課外活動として実施）</p>	<p>○市内の小中学生にも、宣伝活動をするのができたね。</p> <p>○商業施設では600枚もちらしを配ることができたよ。相手によって、話し方や目線を変えることが大事だと分かったよ。</p> <p>相手に合わせたちらしの渡し方や話し方を考えることなど、相手意識をもつことの大切さに気付いている。</p>	<p>■安芸高田市観光協会と連携を図り、宣伝活動の時間を確保する。</p> <p>■相手の年齢や身長などから、どのような接し方がよいかコミュニケーションの取り方を考えさせる。</p> <p>■市内6年生対象の神楽ワークショップで協力してもらったアンケートの結果を掲示したり、パンフレットを配布したりして還元を図る。</p>
<b>実行、振り返り（2）</b>		
<p>美土里こども神楽発表大会へ参加し、取組を実行し、アンケートを基に活動を振り返る。（課外活動として実施）</p>	<p>○衣裳体験では、衣裳の魅力をしっかり伝えることができたね。パンフレットもあっという間になくなったね。</p> <p>○アンケートには、「神楽の魅力が伝わった」「また観に来たい」と多くの人を書いてくれたね。</p> <p>活動に達成感を感じ、地域の伝統芸能のために役立ったという自己肯定感が高まる。</p>	<p>■司会やちらし配り、衣裳体験など役割を分担して取り組ませる。自分たちの活動をしっかりとやり切らせるとともに、お客さんの反応に目を向けるよう声かけをしていく。</p> <p>■来場者からのアンケートを基に、児童の活動を評価し、達成感を味わわせるとともに活動の価値を高める。</p>
<b>課題の設定（1）</b>		
<b>第3弾 学習発表会で安芸高田神楽 伝え隊</b>		
<p>美土里こども神楽発表大会のアンケート結果と、単元当初の認知度調査（地域・保護者のデータを抽出したもの）の結果から、新たな課題を見付ける。</p>	<p>○アンケートに「観客や出演者にインタビューする司会進行役の人はもう少し頑張ってもらいたい」という声がいくつかあったね。</p> <p>○よくなかったところを改善してもう一回挑戦したいな。</p> <p>○認知度調査のデータでは美土里小の保護者の3割は、神楽を観ている回数が少ないよ。</p> <p>○保護者が観ていたら、美土里小の他の学年の子たちももっと神楽を観るようになるんじゃないかな。</p> <p>○学習発表会なら、たくさんの保護者に神楽の魅力を伝えられるよ。</p> <p>新たな課題に気づき、解決したい意欲が高まる。</p>	<p>■第2弾のアンケートから課題となる点を見だし、その改善を図ろうとする意欲をもたせる。</p> <p>■児童が自ら課題に気付けるように、認知度調査の結果をグラフ化した情報を提示する。</p> <p>■保護者に伝えるために効果的な場が学習発表会であること、また、6年生が務める「司会進行」役がコミュニケーション能力の発揮の場となることに、子供たちが気付くことができるようにする。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<b>情報の収集、整理・分析（２）</b>		
<p>学習発表会で保護者に伝える内容を話し合う。</p>	<p>○神楽の魅力を伝えるためには、どんな内容をどんな方法で発表するといいのかな。 ○方法として、劇やプレゼンテーションがあるね。お囃子を和太鼓でやるのもいいかもね。</p>	<p>■第２弾の課題解決で取り入れた手法（ブレンストーミングや座標軸、KJ法など）を想起させ、児童自らが課題解決の方法を決定できるように促す。</p>
<b>まとめ・創造・表現、実行、振り返り（７）</b>		
<p>課題意識をもって練習を行い、学習発表会本番で取組を実行する。その後、活動を振り返る。</p>	<p>○団員さんの熱い思いは、パネルにして提示した方がよく伝わるかもしれないね。 ○神楽囃子のリズムを取り入れた和太鼓演奏で、自分たちの思いの強さを表現したいね。 ○たくさんの保護者や地域の方の前で、自分たちの取組を発表することができたね。保護者アンケートでは、観る回数が少なかった人が、もっと観たいと答えてくれたよ。</p> <p>「目的達成のために、主体的・協働的に活動していくことで大きな達成感を味わう。」</p>	<p>【音楽】「和音の音で旋律づくり」をする学習と関連させ、和太鼓の特徴と神楽囃子の旋律を生かした演奏につなげる。</p> <p>【特別活動】学校行事（学習発表会）と関連させ、保護者・地域の方に披露することで達成感につなげる。</p> <p>■期間をあけて保護者・地域に意識の変化を問うアンケートを取り、自分たちの活動によって、人の意識や行動が変わることを知らせ、児童の活動の価値を高める。</p>
<b>課題の設定、まとめ・創造・表現（３）</b>		
<b>第４弾 東京公演で安芸高田神楽 広め隊</b>		
<p>美土里こども神楽発表大会での活動や、学習発表会のことを聞いた安芸高田神楽東京公演（ひろしま安芸高田大都市圏プロモーション実行委員会）の担当者から、東京公演の観客に喜んでもらうために力を貸してほしいという依頼を受け、自分たちができることを考える。</p>	<p>○実際に自分たちが行くことはできないから、担当者に渡してもらえる方がいいね。 ○神楽を初めて観る人も多いらしいよ。いつも手にする小物をもらったら喜んでもらえるんじゃないかな。 ○家庭科で学んだことを生かして、神楽キャラクターをつけたポーチを作ろう。</p> <p>「東京公演という大きな舞台で、自分たちの活動が役に立つという期待を抱く。」</p>	<p>■昨年度の東京公演の会場の様子を写真で伝え、どのようなことができるか話し合わせる。</p> <p>【家庭】目的に合わせて布を選び縫い方を工夫して製作する学習と関連させ、ポーチの作成に生かす。</p>
<b>振り返り（１）</b>		
<p>東京公演の様子を担当者から聞き、自分たちの活動を振り返る。</p>	<p>○小物はあっという間になくなったみたいだよ。喜んでもらえたようだね。 ○東京でも安芸高田神楽は広まっているみたいだよ。神楽は安芸高田の宝だね。</p>	<p>■東京公演に帯同した担当者の方からいただいた手紙の紹介を通して、児童の活動を評価し、自分たちの活動の広がりを実感させるとともに充実感、自己有用感を味わわせる。</p>
<b>振り返り（２）</b>		
<b>第５弾 安芸高田神楽応援プロジェクトを振り返ろう</b>		
<p>安芸高田神楽応援プロジェクト全体を振り返り、自己の成長を作文にまとめる。</p>	<p>○ぼくは子ども神楽団に所属していたけど、神楽の歴史はあまり知らなかったよ。詳しく調べていく中で、もっと神楽を好きになったよ。神楽は、安芸高田の宝だね。 ○わたしは、協力すれば大きなことができると知ったよ。これからも、地域のために自分のできることをやっていたいな。 ○ちらし配りや神楽発表大会の司会などの経験を通して、相手や場に応じたコミュニケーションの取り方に自信がもてたよ。</p>	<p>■これまでの児童の活動を写真で時系列にそって提示したり、児童が活動ごとに振り返りを書いたファイルを読み直させたりすることで、児童自らが自己の変容に気づき、成長を感じ取れるようにする。また、本単元の育成したい資質・能力の視点を提示し、特に成長した部分について振り返らせる。</p>

### 【児童生徒の変容】

多くの児童にとって小さい頃から身近にある「神楽」。その中で、転入生の言葉をきっかけに、自分たちで800人以上の神楽の認知度調査を行ったり、実際に伝統を受け継いできた神楽団員の方の話を聞いたりする中で、地域の伝統芸能「安芸高田神楽」に愛着を抱くようになった。児童の振り返りの中にも「今までは神楽に興味はなかったけど、神楽について調べているうちに楽しくなって、地域の神楽を観に行くようになった。」と記述した児童もいる。また、単元が進むにつれて、課題解決に向けて自分たちで情報を整理し、自然と解決方法を考えていく姿が見られるようになった。さらには、「今までは友達と協力して作業するのはあまり好きではなかったけど、みんなで考えると新しいアイデアが生まれて、大きなことができるから、これからもみんなと協力して活動したい。」「これまでは、人前に出たり地域の人と話したりするのが苦手だったけど、この学習を通して自分に自信がもてるようになった。」と答える児童も多かった。

このように、地域の素材を最大限活用し、児童が学び応えのある課題を繰り返し追究することで、「コミュニケーション能力」や「主体性」、「協働性」等の育てたい資質・能力の高まりが見られたと考える。